



技術力、提案力…

今できることのボリュームを
増やしていきたい

なでしこ力

Power of Nadeshiko

創業 56 年の不動フェンス工業株式会社（名東区）。豊富な経験と実績に基づいた技術力で高品質な工事を提供し、交通安全施設の施工を行ってきた。施工するのは、道路、空港、港湾、公園、病院の外周工事など幅広い。高い技術力と提案力で「困ったときの不動フェンス工業」と言われるまでの同社の歴史と今を 3 代目代表の北英子さんから伺った。

官公庁からの受注も多く

不動フェンス工業の営業品目は、フェンス工事（立入防止柵、転落防止柵、落下物防止柵など）、遮音壁工事、防護柵工事（ガードレールなど）、標識工事、エクステリア・外構工事などのほか、立入禁止板の制作販売を行っている。現在は、高速道路関連工事が多くなってきている。

受注先は中部一円が主軸で、愛知県、名古屋市、空港など公所も多い。現在、NEXCO 西日本管内でも工事の受注をしており、全国へ向けて受注先を広げている。中部国際空港セントレアでは、開港当時、空港の外周 11 キロのうち 9 キロの工事を行った。NEXCO 中日本では、元請としての受注と、高速道路の維持修繕業務だけでなく技術提案も行っており、物販の立入禁止板は全国に 2 万枚をこえる納入実績がある。

技術力と提案力で

「困ったときの不動フェンス工業」に

昭和 44 年（1969 年）創業の不動フェンス工業は、専門的な技術力と提案力を積み上げてきた現場熟練の技術屋集団だ。建設業界では、社内の技術の共有や次世代へ知見の伝承が年々難しくなっているが、ゼネコンからも「困ったときには不動フェンスに聞

け！」と言われるまでになった。

建設業界は「一人親方」（従業員を雇用せず個人や家族で仕事を請け負う）の人達が多く、建設会社が一人親方の人達を「施工下請」として使うケースが多い。しかし不動フェンス工業は社内に「施工部」というセクションがその役割を担い、現場で働く人を正社員として雇用しており、社員の若返りを図ることもできた。令和 6 年（2024 年）の社屋移転後は、社内に「施工部」の机を置き、現場の仕事が終われば社屋に戻るようにして、ワンチームで仕事に臨む姿勢が整っている。

他業種とは違う「人出不足」を解消

このシステムで社内での技術や情報が共有されやすくなり、ほかのセクションの社員とのコミュニケーションが密になった。施工費用も低く抑えられ、現場対応の時間もより早くなった。社員それぞれの意識が高まり、会社全体の様々な底上げに挑戦中だ。

近年は大手建設会社の人出不足が問題になっている。若者の意識の変化や、超売り手市場の状況下、「若手社員に転勤を告げると、直後に退職する」というケースが続出。大手建設会社が想定外の人出不足に直面し、突然の技術者不在や、技術の継承



セントレア外周フェンス。テロ対策侵入防止目的で施工



令和 6 年に移転した社屋全景